

CIEC 外国語教育研究部会第7回学習会報告

テーマ 「iBooks Author ワークショップ」

日時 2015年1月11日(日)13:30~17:00

会場 大学生協杉並会館 204-205 室 (東京都杉並区和田3-30-22)

講師 林 拓也 氏 (オーサリング・エンジニア、テクニカル・ライター)

参加者 11名

■ 概要

今回の学習会は、電子書籍のオーサリング・ソフトの中から、iBooks Author を取り上げ、参加者が各自準備したデータおよび講師が練習用に用意したサンプル・データを用いて電子書籍の製作を行うワークショップであった。始めに、iBooks Author の概要と操作方法の概略の説明を受けて、各自が持ち寄ったデータ



を用いての個別の電子書籍製作に取り組んだ。その後、講師の準備したサンプル作品とデータを使って、iBooks Author の操作性を生かした作品作りの研修を行った。受講者からは活発な質問が出されるとともに、全受講者のみならず、個々の受講者にも個別に丁寧な説明を受け、実りの多い学習会となった。

■ iBooks Author の概要および特徴

始めに講師から、iBooks Author の概要および特徴の簡単な説明があった。

iBooks Author は、Apple 独自の形式で動作するソフトである。また、アップル社製の電子書籍閲覧アプリ「iBooks」のみで閲覧することができる。Windows 環境では使用できないという条件に加え、EPUB の閲覧に関してソフト面やハード面での制限が有るというデメリットもある。しかし、それを補って、なお魅力的であるのは、次のような理由からである。(1) プログラミングやソース・コードの編集が不要で編集を簡単にできる。インターフェイスが充

実している。(2) テンプレートを利用した「統一感のある見栄えのよい電子書籍」が作成可能である。「追加情報」、「写真の切り替え機能」、「地図が拡大する機能」などを備えていることも、見栄えをよくしている要素である。(3) 動画、音声を扱うことができるほか、クイズの提示などのいくつかのインタラクティブな機能を利用することが可能である。用語集で用語の設定をし、リンクをはりつけ、「吹き出し」を表示することができる。(4) 製作物は、無料で配布したり、iBooksで販売したりすることも可能である。

また、以下のような特徴があることも補足された。(1)基本的に文字は、固定レイアウト形式でありリフローはしないので、複雑なレイアウトに向いていると言える。(2) 縦書き、ルビ、右開きは非サポートである。

■ 製作の実際 1 (通しの説明と各自の作成)

iBooks Authorでの製作ポイントについて、テンプレートの選択からスタイルの利用、インスペクタの利用まで通しての説明が講師によって行われた。以下に各手順の概要を述べる。

【テンプレートの選択】

テンプレートの違いは方向(縦/横)がある。デザインは当然異なるが、機能的な違いはない。事前に各テンプレートのデザインをチェックしておくとうい。 (チャプター・ページ、セクション・ページどちらのテンプレートも有るので見ておくとうい。章によってテンプレートを変えるのもよい。)

【基本構成】

タイトルページは、電子書籍の表紙に当たるものであり、iBooksのライブラリ画面のサムネイルとして表示される。販売する時のアピールの為に重要である。タイトルと著者名は大きく作成するのがこつである。目次は、コンテンツの作成と共に自動的に生成される。

【インターフェイス】

製作画面には、ツール・バー、追加用のボタン、フォーマット・バー、ウィジェット(インタラクティブ・オブジェクト)の追加等のボタンが並んでいる。フォントの設定(色、大きさ、太さ、行間のサイズ変更)、画像、音声等の張り付けを行う。サイド・バーには、サムネイルが表示されている。

【スタイルの利用】

テキスト用のスタイル(色、サイズ、行間等の設定)をスタイル・パネルに

登録しておくこと、体裁を統一しながら作成が可能である。スタイルボタンを使い、表示、非表示の切り替えができる。スタイル・パネルは、基本的に表示しておき、適宜、文字情報を追加、修正、登録しながら製作していく。スタイルを上書きすると、そのスタイルを適用していた部分全ての体裁が変わる。改行を区切りとした一文には「段落スタイル」を、その中の一部のテキストには「文字スタイル」を適用する。

【チャプタとセクション】

チャプタとセクションという構成を意識して製作を行うと、わかりやすく、見栄えのよい書籍に仕上がる。チャプタのタイトルとリード文をあらかじめ用意しておくことよい。セクションも同様に、リード文を利用する。チャプタもセクションもテンプレート使用することで、目次が自動生成される。

【各種インスペクタの利用】

ツール・バーの「インスペクタ」ボタンで表示されている。「インスペクタ」とは、いろいろな機能を持ったパネルである。（「テキスト・インスペクタ」、段落の前後のスペース作り、「回り込みインスペクタ」は、「回り込み」の方法の調整など、その他グラフィック・インスペクタで画像の色等を修正できる。（「位置と回転インスペクタ」、「書類インスペクタ」等）インスペクタの上部ボタンでインスペクタの種類を変更できる。それぞれのインスペクタの役割を把握すると効率化がはかれる。

■ 製作の実際 2 (講師の準備した教材データを用いての共通課題のワークショップと質問)

iBooks Author の操作説明と各自のデータを用いての製作が行われた後、講師の準備した教材を用いて、「製作のポイント」を押さえた説明を受けながら、参加者全員で共通の課題で教材作りに取り組んだ。以下に、要点を示す。

【製作開始時の要点】

製作順序としては、表紙から作っていく。どのテンプレートを選んでも、見た目の違いを発生させないため、邦文フォントに設定して始める。（欧文フォントが最初選ばれている。）著者名とタイトルは、はじめに入れておく。イントロ・メディアに、オープニング用の動画ビデオを置いておくと、本を開いた時にビデオがながれる。

【書類インスペクタでの注意事項】

製作開始時には、書類インスペクタで始めに「横書き」に固定してしまう。横方向のテンプレートを用いることで「固定レイアウト」で製作することができる。（「横書き」に固定するとレイアウトが崩れないというメリットがある。横向きを縦向きにするとリフローが起こる。）

【製作中の要点】

テンプレートを用いて製作している際に、画像を差し替えるには、保存先のフォルダーからドラッグ・アンド・ドロップで置き換える。テンプレートでは、画像マスクがされているが、マスクのサイズも変更することができる。テキスト・ボックスでは、文字があふれると、新しく自動的にページが作られ、あふれた文字が流し込まれる。

自分で新しくテキスト・ボックスを追加することができる。「ページ区切り」を設定することで、ページの途中で次のページに進む。「段組み区切り」を設定すると、次の段に進む。用語集は脚注的に利用できる。

今回の学習会への参加者数は、新年最初の連休中の日曜日に開催されたということで少なめであったのが残念であった。半日という短い時間であったが、具体的でわかりやすい説明と、iBooks Author の機能を巧みに使用した「ひな形教材データ」によって、受講者は多くの成果を得ることができた。この学習会で得た知識と技術を用いて、電子書籍の製作のみならず、生徒や学生にとってわかりやすく、力のつく教材開発への取り組みがなされることを期待している。

文責 明石市立中崎小学校 真崎 克彦